

二〇二二年六月二三日

車窓いまスライドショーに植田見ゆ
羅の立ち居涼しき茶会かな
曲りたる胡瓜も幸よ自家菜園
老見ゆる大道芸人玉の汗
雨脚を切らんと返すつばくらめ
嵐峽を借景として夏座敷
青田風山田錦の幟揺れ
花苗のあまりを貰ふ梅雨晴間
指呼の先動かぬ影や青葉木兎

二〇二二年六月二三日

濁流が中州を襲ふ梅雨の川
雨蛙指揮者は何処ぞ鳴き止まず

二〇二二年六月二二日

雨なれどどこか明るき夏至の空
地下鉄のホーム常濡れ梅雨の傘
店先の干し蛸風に回りけり
梅雨しとど悲鳴上げをる破れ樋

二〇二二年六月二〇日

青葉風バイクの並ぶ峠茶屋

さつき

わかば

あさこ

百合

せいじ

よし子

こすもす

有香

ひかり

せいじ

さつき

菜々

なつき

ともえ

うつぎ

ひかり

二〇二二年六月一九日

バス停の標識を越ゆ立葵
田植女の御田に一礼して上がる
御田搔くやる気なさげな飾り牛
橋桁の折るるばかりや梅雨出水
御田植の空へつつぬけ笙太鼓

二〇二二年六月一八日

寝おしみて更けゆく夜の杜鵑
紫陽花の毬川波に揺れやまず
音涼し自動演奏ピアノとて
都大路いまや紫陽花ロードかな

二〇二二年六月一七日

父の日や地酒抱きて嫁来る
立葵背筋伸ばして仰ぎけり
宿浴衣携帯電話鳴るたもと
音すれど機影は見えぬ梅雨の雲

うつぎ

うつぎ

よし子

三刀

菜々

よし子

さつき

満天

ぽんこ

三刀

満天

よし子

さつき

毎日句会みのる選・二〇二二年六月二六日